

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 奈良市立済美小学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等教育学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他 ( )

住所 〒 630-8325  
奈良市西木辻町5-2

E-mail : seibi-e@naracity-ed.jp

Website : http://www.naracity.ed.jp/ele01/index.cfm/9.html

児童生徒数：男子 256 名 女子 277 名 合計 523 名  
 児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

## 1年生

『なかよしさんぽ』（生活科）

1学期は校内や校庭を散歩して、1年生はもちろん学校のみならずなかよくなり、「わたしの学校」のよさをたくさん感じ取ることができた。2学期は、虫取りや木の葉・木の実集めなどの楽しい体験を通して、「わたしの奈良」のすばらしさに気付くことができた。校庭や奈良公園で集めてきた木の葉や木の実を持ちよって、「リースづくり」をしたり、「木のはのはりえ」「ネックレス」「ドングリめいろ」「おめん」「でんでんたいこ」「音の出る楽器」など、思い思いの作品作りをしたりして秋を楽しんだ。3学期には、地域の人たちから「けんだま」「こままわし」「お手玉」などの昔の遊びを教えてもらい、その後、幼稚園の子どもたちといっしょに楽しく遊ぶ活動をした。「なかよしさんぽ」を繰り返す中で、子どもたちは、『ひと・もの・しぜん』となかよくなって、自分の生活を楽しくしていく力を身に付けてきた。

## 2年生

『わくわくさんぽ せいびの町』（生活科）

1学期、自分が見付けて来た「せいびの町のすてきなところ」を紹介し合い、全員で町探検をした。夏休みには、友だちに紹介してもらったおすすめのところをもう一度自分で探検した。済美の町には、すてきなところがいっぱいあることを知った。2学期には、「もっとくわしく知りたいな。もう一度魚屋のおじさんに会いたいな。」と、今度は「町のすてきな人たんけん」に出かけた。消防署や古いお寺の方、昔ながらの魚屋さん、手打ちうどんの店、能面教室のおじさん、野菜作りの上手なおばさんのところなど14か所を決めてグループで探検した。その人たちと触れ合いながら「見て・触って・やってみる」体験をさせていただいた。その後、それぞれが体験してきたことを「せいびの町のすてきな人発表会」で保護者に紹介したり、お世話になった方々にお礼の手紙を書いたりする活動を行った。これらの活動を通して、自分たちの住んでいるせいびの町にはすばらしい場所がいっぱいあることや、そこには、すてきな人がいっぱいいることを知って、子どもたちは、ますます済美の町が好きになった。

## 3年生

『もっと知ろうよ 済美の町を』（社会科・総合）

社会科の学習「校区をしらべよう」で済美の町がどんな町なのかを知るために校区探検をした。そして、校区にある奈良町は世界遺産に登録されている元興寺の旧境内を中心にした一帯であることを知ることができた。そして、校区探検で気付いた『校区のふしぎ』や『お気に入りの場所』を課題にし、夏休みの自由研究に取り組んだ。その後各自が調べた自由研究を発表し、校区地図に書き入れ「校区紹介マップ」に表現する活動をした。その活動の中で、奈良町には町屋の町並みや昔からのものなどがたくさん残されていることに気が付き、そこには、残したいと願う人々の思いや様々な努力がなされた結果だということ学んだ。

また、墨づくりの様子を学習し、職人さんの工夫や苦労や、自分たちが普段何気なく使っている墨が奈良の伝統産業であることを知った。そして、墨のほとんどが奈良で作られていること、自分たちの住むごく近くでも作られていることに驚いた。

## 4年生

『奈良公園の自然観察』（理科・総合）

『奈良筆づくり体験』（特別活動）

『平城宮跡の保存に尽くした棚田嘉十郎』（社会科）

広大な自然が広がる奈良公園は、明治13年に古都奈良に誕生した。ゲストティーチャーと共に、この奈良公園の自然の四季の変化と、植物（生産者）、約1300頭いる鹿（消費者）、糞虫・バクテリア（分解者）が織りなす生態系によって奈良公園の自然が保たれていることを学んだ。その中で、春の桜、夏のルリセンチコガネ（鹿の糞を分解する糞虫）・モリアオガエルの卵、秋のイロハモミジやナンキンハゼ、イチヨウの紅葉、そして、冬の風

物詩「鹿寄せ」など多くの奈良公園の秘密との感動的な出会いを体験した。

2学期には、奈良の伝統工業の一つである奈良筆づくりを体験した。1300年以上前から使われ、今も自分たちが使っている筆がどのようにして作られているのかを伝統工芸士さんから学んだ。そして、実際に作ってみることで奈良筆に対する愛着をもつとともに、職人さんの技術の高さやそれを長く受け継いできている奈良の人の思いについて考えることができた。

また、「きょう土の発展につくした人」では、平城宮跡の保存に一生を捧げた棚田嘉十郎を取り上げた。植木職人であった嘉十郎は、平城宮跡に強い関心を持ち、私財を投じて一面田んぼになっていた跡地を買い取ったり、国に訴えたりして、保存運動につくした人物であり、現在の朱雀門横に嘉十郎の銅像が建っている。そんな嘉十郎の業績や生き様に学び、これから自分たちが世界遺産を守っていくことの大切さを感じた。

## 5年生

『世界遺産見学』（総合）

『JR奈良駅舎を守った奈良の人たち』（総合）

『残そう 済美の自然遺産』（総合）

世界遺産に登録されている8つの「古都奈良の文化財」の近くに住んでいながら、行ったことがなかったり、よく知らなかったりする児童にとって、この時期の世界遺産見学は大変重要である。なら観光ボランティアガイドの会『朱雀』の方々にグループについてもらい、その様々なお話を聞きながら、東大寺、国立博物館、春日大社、興福寺を巡った。

本校から歩いて10分ほどのところにある旧JR奈良駅舎は、1998年、JR奈良駅の高架化と駅周辺の再開発事業に伴い取り壊されることが決定した。70年前に造られたこの駅舎は、寺院をイメージした方形屋根や五重塔の相輪などがあり、古都奈良の玄関口としてふさわしい駅舎として多くの人たちに親しまれてきた。岩崎さんを中心に保存活動が進められ、2009年には近代化産業遺産として登録された。大切なものは自分たちで守っていかなければならないことを実感した。

済美小学校の正門にあるナラノヤエザクラが奈良市の花であるとともに絶滅危惧種になっており、知足院でみつかったナラノヤエザクラを増やしていくために学校に植えられていることを知った。さらに校庭にある植物・生き物に目を向け、たくさんの種類の樹木や草花があることを知った。外来種のセイヨウタンポポに脅かされているカンサイタンポポや、絶滅危惧種のイヌノフグリが校庭にあり調べた。その中で、猿沢池のイシガメ・ミドリガメなど外来種と在来種の関係も調べた。そして、済美小学校のどんな自然を残していきたいか、自分が大人になったとき、どんな植物や生き物が済美小学校にあったらいいかを話し合った。ただ、外来種を排除するだけでなく、在来種や希少種について、全校のみんなに知ってもらい、カンサイタンポポやイヌノフグリに興味をもってもらって守っていったらいいと考え、校内のいくつかの場所に「済美の自然遺産マップ」をつくり、樹木・草花・生き物の名前と簡単な説明を掲示した。

## 6年生

『未来に残したい美しい奈良の風景を見つけよう』（総合）

6年生の児童は、低学年から「町たんけん」や「済美の地図づくり」、「奈良公園たんけん」など、地域の「人」「もの」「こと」を題材にして済美や奈良のよさを見つける学習を積み重ねてきたこともあり、済美のよさ、奈良のよさをよく知っている。夏休みの自由研究では、「奈良・済美のよさ再発見」というテーマで、奈良のよさについてより深く調べる活動を行った。社会科で学習したことをもとに、歴史的な背景にも興味をもって取り組めた。

そして、江戸時代、奈良の観光名所として知られていた南都八景をもとに、未来に残したい美しい奈良の風景として「新南都八景」を選ぶことにした。まず、自分たちの知っている奈良の名所を挙げ、その後、地域の人やお家の人、約1000人に奈良の名所をたずねるアンケート調査をした。その際、iPadを使って、保護者の方にアンケートを採る活動も行った。そして、その結果の上位28カ所から、自分が名所にふさわしいと思う場所を選んで調べ、そのよさをプレゼンテーションし合った。学習参観日に発表し合い、保護者の方に

も参加してもらって、それぞれのクラスの「新南都八景」を選んだ。また、世界遺産学習サミットにおいて、iPadを使いその新南都八景の良さを発信した。

最後に、6年間積み重ねてきた世界遺産学習を振り返り、凝縮ポートフォリオを作成した。

#### 図画工作科

『世界遺産のある町の版画カレンダー』（5年）

5年生は、世界遺産見学で訪れた大仏殿・春日大社・元興寺・興福寺などをその場でスケッチしたり、写真を見て描いたりした。それをもとに彫り込み木版画を完成させた。いくら身近にあっても、お寺をじっくり見る機会は子どもたちには少ない。何度も彫ったり刷ったりしていく中で寺院の美しさに気付いた児童は多い。この活動を通して寺院に興味をもち、これがきっかけとなって身近な本物を見に行くようになってほしいと思う。

#### 音楽科

『わらべうたで遊ぼう』（3年）

地域にある奈良市音声館[おんじょうかん]を組ごとに訪れた。

音声菩薩からこの名前がつけられたとの説明のあと、「なかなかホイ」というわらべうたで遊んだ。2人組で足を開く人と閉じる人に分かれ、わらべうたのリズムに合わせて開閉する。2人のタイミングがピッタリと合った時はとても楽しくコミュニケーションできた。その後「フヤ」というブラジルの遊びを学んだ。トラ・うさぎ・コンドル・コブラ・ドラゴンのポーズをリーダーと違う動作できめる。勝ち抜き戦でみんなが笑顔になって楽しめた。ふだんの遊びの中で、自然にわらべ歌を口ずさみながら友だちと遊ぶ子どもの姿を見たいと願っている。

#### 家庭科

『伝えたい大和の和菓子“葛まんじゅう”を作ろう』（5年）

『伝えたい大和の郷土料理“奈良のっぺ”を作ろう』（6年）

江戸後期から代々受け継ぐ「吉野晒し」の製法で作った“吉野本葛”を使った“葛まんじゅう”作りをした。老舗のお店の方に出勤授業をしていただいた。初めに、“吉野本葛”の製法や作り方などの説明を聞いた。その後、グループに分かれて“葛まんじゅう”作りを行った。葛を練る時の火加減や、固くなり始めても5分程木しゃもじで混ぜ続ける等に気を付けて作った。ラップに冷めた葛をのせ、丸めた餡を包んだ後、銘々皿にのせた。大和茶を急須で入れて、お茶のひとつときを楽しむことができた。

6年生では、春日若宮のおん祭りの振る舞い料理として伝わる“奈良のっぺ”を作ることにした。調理実習をするまでに、“奈良のっぺ”について学習した。奈良のっぺは、精進物で、のっぺ用の油あげと里芋、大根、にんじん、ごぼうを乱切りしたものと、こんにやくを煮込んだものである。塩と醤油で薄味に仕上げる。本来は、大鍋で大きく材料を切って煮るが、実習では、火が通りやすいように材料は、薄く、小さく切った。砂糖が入っていなくても、野菜の甘みでおいしく食べることができた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他（ )